

○第2回長門市部活動改革推進協議会 会議録（概要版）

日時：令和5年3月26日 午後6時30分～午後8時

場所：長門市市民活動支援センター2階会議室

出席者：協議会委員16名、オブザーバー1名、事務局8名

■事務局

定刻となりましたので、只今より第2回長門市部活動改革推進協議会を始めさせていただきます。

協議に入る前に、オブザーバーとして大津緑洋高等学校より村山晋一校長先生にお越しいただいております。高等学校の立場から、中学校部活動改革へのご意見をいただければと思います。一言挨拶をお願いします。

■オブザーバー

高校でも部活動の精選というのが今後さけて通れない。中高の部活動で連携だけでなく、小中高と繋がっていくような部活動運営ができれば良いと思っています。よろしくお願いたします。

議題

（1）長門市の部活動地域移行の方向性について

■事務局より説明

資料1の説明

市HP、報道関係の意見の抜粋

生涯学習・スポーツ推進計画アンケートに寄せられた意見の抜粋

参加を希望する生徒が平日、休日ともに選択肢を持って自ら選んでまとまってスポーツ・文化活動を行うという方向性の案をHP、報道、小中学生全保護者を対象にチラシ配布等をおして周知を図る。

①HPに寄せられた意見

- ・長門市の中学校の部活動の独自性や特色、継続性を考えた上での地域移行をお願いしたい。
- ・指導者の確保困難極めると思う。早めの動きは必要だと思う。なぜ、移行しなければいけないのかという狙いをしっかり理解してもらえるようにしてほしい。
- ・教員が部活動に従事することは当たり前というような風潮がある。
- ・某社の新聞記事は生徒数が減少している。とあったがこのことで、学校を統合するような結論に展開することは違う。部活動の問題と切り離して考えてほしい。
- ・指導者の確保、早めの確保。早めの動きが望ましいのではないか。
- ・スクールバスのように放課後部活動に代わるクラブなどへの送迎があると良い。
- ・長門市内などの中心地以外、郡部の子供たちは親も仕事をしていれば通うのは難しいと思う。居住地により不公平がないようにしてほしい。
- ・ダンス部があれば良いと思っていた。

②生涯学習スポーツ推進計画策定に伴うアンケート調査からの意見

市民 1,400 人にランダムに送付したもの（年齢的なものは不明）

概ね、部活動移行に対して否定的な意見はなく、賛成的な意見が多かった。

少子化により部活動が選べない。

学校教員の働き方改革が必要。

活動内容を充実してほしい。

部活動移行に伴う課題などの問題提起。

■会長

HP 又はアンケート等で概ね地域移行に対する否定的な意見というよりは、移行に伴う困難を指摘している意見はあったとしても、進めていかなければいけないというような意見が、少数ですが現在出てきている状況です。

第 1 回会議の中で、前回示した、概略について所属等に持ち帰り、意見集約をお願いしていました。順次お願いします。

■委員

部活動地域移行の全体像がなかなか見えにくい。移動の問題等多くの課題があり、漠然とどうなるのかなというような疑問をもっている教員はいる。

■委員

学校では賞・コンクール等、地域貢献に繋がるような活動をさせたい。吹奏楽では楽器の保管場所が困難ではないかという意見がある。勝利や技術向上を目指すのであれば地域部活動の競技練習が 1 週間平日、平均週 2～3 日では少ないのでは。学校での活動が疑似的な部活動のようなものが複数発生しないように考えていただければという意見があった。

■委員

送迎の問題、事故や怪我のときはどうするのかという細かい意見。大きなところでは、地域移行を進めるのであれば持続可能な活動であってほしい。例えば、年々指導者がコロコロ変わっていくのではなくて、長い目で運営できることが大切。各学校単位のスポーツレクについて、中途半端に残すとかえって教員の負担感がかなり大きなものになる。地域クラブ移行と学校の部活動のあり方の改革が同時に進んでほしい。

■委員

概ね子どもたちが希望する部活に参加できるのではないかとすることで否定的な意見はないが、具体的なイメージができず、不安を訴える教員がいる。教員の配置がどうなるか。指導者の確保の問題で、教職員の負担増になるのではないかなど。移動の問題、安全性の確保。というような意見が出ている。

■委員

教員からの意見は出てないが、具体的な像が見えてこないなので、教員たち自身がどういうふうを考えているか、考えていいのか分からない。

もう少し具体的になると話しやすいという意見があった。中体連の部長をしているが、地域部活動と中体連の大会の運営がリンクしているので、中体連としてどう運営していくのかという議論がでているのが現状。

■委員

実はこの問題というのは今の中学生より、今の小学生の方に直接関わってくる問題。実はあまり子ども達の中では、問題意識がない。小学生がまだ部活についてそこまで考えてないということもあるが、保護者の方から地域移行についての声が聞こえていないということで、周知をしていかないといけないと思っている。

子ども達がいろいろなスポーツしています。サッカーをしている子どもについては、あまり関心がない。野球をしている子どもは深川中だけでチームができないという、危機感を持っていて、本当に中学校で野球ができるのであれば、そういった方向にという気持ちはあると思う。

■委員

部活動は生徒指導上のすごく大きな役割を持っていて、学校間で、一緒のところで、一つの場所で活動すると複数の学校での生徒指導的なことが起きる。その後の事後処理ということで、複数の学校をまたいで生徒指導を行わないといけないということで、先生たちから不安を聞くことがある。

■委員

吹奏楽部の地域移行はかなり難しいだろうと思う。長門、美祢・萩、の地区会議の時に出了た話題になったことで、中体連と同じように来年度からコンクールの参加の規定が変わり、中学生の部に変更になって地域で活動しているような団体がコンクールに出場できるようになった。それに向けて各地域で、いろいろな活動を考える組織を作っている。美祢市では今年度から地域の方が指導に入って、部活動を運営している。指導者の確保が難しい。特に吹奏楽の場合は、地域にそういった人材がなかなかいない。そういったところが、かなりネックになるのではないか。全国の吹奏楽連盟でも協議がはじまり、我々はその下部組織になっているので、どう動いていいかわからないという状態で、悩みが募っているという状況。

■委員

公民館でもいろいろ話が出た。まず、学校から活動がなくなって、地域に完全に移行するときに、しっかりした運営主体がないと絶対運営できないと思う。専門スタッフの充実を図っていかないといけない。例えば公民館で何を受け持つとか、このエリアをこの公民館というのであれば、今のスタッフじゃ難しいなど、いろいろな場面を想定して話が出た。運営主体、特に財源確保の問題。ほぼ手当のない状態で土日も含めた教員の善意と熱意で何十年と保たれてきた部活動であり、そのまま地域移行した場合、人が集まらないと思う。また、競技としてのスポーツ、楽しみとしてのスポーツができるような重層的な厚みを持った、地域クラブになればいいという意見をもらった。

■委員

保護者会での意見は、なかなか全体像が見えてこないというところ。不安に思うことは送迎問題。子どもが希望する場所がどこになるか、時間的問題、指導者の確保というところ。子どもがけがをした時の応急処置などの対応。部活動が地域移行することで保護者負担が発生するのかどうか。PTA連合会の会長会議が年3回あるのでそこで説明会や地域移行に向けた進捗状況の報告会してもらいたいという意見がある。

長門市方向性というところで、楽しさを感じられる人材育成を目的とするというところで、試合が大会での勝利や技術向上のみを目的としないということがあるが、逆に、技術向上や大会で

の勝利というものを一番に考えている子どももいると思うので、部活動、平日週2・3回程度・休日週1回程度で技術向上を図れるのか。という不安の声も上がっている。

■委員

スポーツ少年団は、地域の方々が指導して、子どもたちにスポーツ方法を教え、大会にも出ている。少子化の影響で、スポーツ少年団によっては、市内全域から集まってスポーツをやっているとこもあれば、旧町においては二つの小学校で1つのチームを作ったりしながら、社会体育の一環として、スポーツ少年団・地域の人々が中心となって指導している。完全地域移行型のスポーツですけど、元来、スポーツ少年団は小中高生までが加入するものであって、長門市は小学生が終わったらスポーツ少年団は終わりというイメージがある。他市では高校生までスポーツ少年団がある。長門市においては、中学生が団に入っている種目で特に多いのは武道系である。

今後地域移行が行われた場合、クラブ登録をするに当たって、地域にスポーツクラブがあれば、そちらにも登録しないといけないのか。スポ少と地域スポーツクラブの二重路線で進んでいくのか、スポ少の在り方も含めて考えていかななくてはならない。

■委員

中学校で外部コーチとしてバレーボールに関わったことがある。指導の難しさが分かる。

今後、指導者を対象とした研修が大切になると思うし、充実していかななくてはならない。

■委員

長門市スポーツ協会の理事会において、皆さんの意見を聞いた。スポーツ協会の加盟団体は、指導者を出すことになる可能性がある。地域移行について、指導者の確保が難しいのではないかという意見がある。その中で、指導者を育てていく中で、地域移行の詳細スケジュールを示してほしい。地域移行後指導する上で、資格などが必要になってくるのではないか。競技団体のコーチング資格があるが、そういった資格が必要になってくるのか。それとも、山口県や長門市が独自のそういう資格制度を設けるのか。そういう話も出ている。資格だけじゃなく、講習などが必要になってくるのではないだろうかという意見をいただいた。

実際に指導するにあたって外部指導者だけで指導するのは非常に難しいのではないか。トラブルがあった時の対応が不安なことから、先生も一緒に活動してほしい。

■オブザーバー

大津緑洋高校は3校舎で部活動行っている。部活動用バスで毎日巡回している。移動のタイムロスがあるということと、一番問題になっているのは、3校舎にそれぞれ顧問を置いて、連絡調整をしながら主たる技術指導の顧問は、普段接していない生徒の面倒をみるのが課題となっている。移動予算もかなりかかる。我々教職員は地域移行したスポーツ活動で何をやっているんだらうって気になると思うが、地域移行した組織に任せることが必要になる。任せるためにはその組織づくりが求められている。指導者の質の向上についていえば、高校の部活動の指導員制度がある。年に数回か研修を受けるだけで、特別な資格は無しに部活動指導員としての引率もできるような活動をしてもらっている。そういった研修制度のあり方、組織の確立の仕方、生徒の送迎の仕方、皆さん、そこを確かなものにした上で、学校は切り離す勇気。それが部活動地域移行として大事なところではないかと思う。

■副会長

スポーツ協会としての意見としては、移行期間2年というのが少し短いのではないか。この1

年間に指導者講習会を何度かやって、来年1年間は、先生と一緒に部活動を行う。などタイムスケジュールがきちんと示されないと難しい。

スポ少のコーチのように講習会を受けて、それに受かった人が、スポ少の指導ができる。部活動移行に伴い指導者は資格がないと指導できないかという危惧がある。指導者の育成が課題となる。保護者費用負担、負担金額、指導者への謝金などタイムスケジュールを示し課題をクリアしていくことが大切である。平日2日、休日1日の場合、技術向上が見込めるか、複数の部活動に参加できるのかという意見がでた。

■事務局

本日欠席の委員より意見を聞いている。

今後少子化が進むであろう、長門市で、現在協議しているような部活動改革は必ず必要である。先生方のプライベートの時間が犠牲になっている状況もよくないと思う。子どもたちの可能性を隠れた才能みたいなものが、今の部活動体制の選択肢がない状態では広がらないのではないかと感じる。案で示している選択肢を持たせるということで、人材確保が難しいのではないかと感じる。

■副会長

中学で部活動種目がなかった競技団体においては、中学生が選択するチャンスと捉えることができる。そのためにも各競技団体は、指導できる体制づくりをしてもらいたい。また伝えていく。

■会長

今まで中学校がそれぞれの学校で、任意ではあるが数少ない種目から選択し所属する。という形の中で、このスポーツを自分たちでやらせたいと思っても、少子化の中、人が集まらない。そういうときに、新たなチャンスにもなる可能性があること。子どもにとっては選択肢が増える。競技にかける熱意も指導者の方々は持っており、しっかりした体制作りが進んでいくと思う。大いにお願したい。

一番多い意見としては、具体案・全体像が見えないということへの不安については当然だろうと思う。運営する団体の体制づくりと、スポーツ勝利主義のスポーツクラブを前提としてないということに対して、それが必要だという人もいるだろうという意見。それが、そういった形で現実に関、自然発生的に行われるスポーツ少年団という組織。大きなヒントになる。部活動問題については、平成29年ぐらいから保護者、市議会から子どもたちに活動の選択肢が少ないということで、かなり問題提起されていた。学校教育課で事務局を置き、令和元年度に研究会をPTA連合会と連携しておこなった。そこに出てくる課題は今出ている課題とほぼ同じ。ただ、その時は保護者側の目線が多かったので、大津緑洋高校のイメージで、移動しながらみんなが集まって、部活動をやれているのではないか。それを見てインスパイアされたという報告だったような感じだった。移動という大きなハードルだが、思いも大切にしていけないといけぬ。具体がまだないが、こういった話を積み重ねることで、事務局で今日出た課題も精査して、ジャンルに分けて、具体案に繋げていけるようお願いしたい。

議題（2）アンケート調査（児童・保護者）

■事務局より説明

将来の当事者となる、現小学校児童、その保護者、中学校の保護者も含むが、部活動地域移行に向けて、アンケートを実施し、ニーズや意識をつかみたいというふうに考える。次年度早々に、

アンケート調査をして、それぞれ意見をいただきながら、傾向及びニーズを掴みたいと思っている。

①児童用アンケートについて

小学校4・5・6年生を対象

任意の活動であることから活動意思の確認

他校の中学生と共にまとまって活動することに対する考え

まとまったの活動となった場合の移動について

活動種目を決めていくためのニーズ（希望種目を2つ選択）

1週間の活動日（平日、休日の活動日）

活動目的（勝利至上、コンクール等で入賞等なのか仲間と楽しく活動することを目的にするのか）

②保護者用アンケートについて

長門市が進もうとしている、長門市で進めようとしている、方針性の（案）に沿って、児童用のアンケートとある程度リンクするように作成。保護者については費用負担の程度について回答を求めたい。

実施時期は4月から5月中旬を予定しており、第3回の協議会が開かれるまでに集約したものを示したい。

■委員

保護者向けについては、部活動移行に至る背景をしっかりと説明した上でアンケートを取ったほうが良いのではないかと。

■会長

部活動地域移行の話は知っているが、いかに理解されるかということとは分からない話である。説明の回数を増やす、分かりやすく説明し同時にアンケートを行うことは必要である。

■副会長

児童用アンケート質問1の「中学生になったら、何か活動がしたいと思いますか？」の質問で、児童は学校部活動をやると思ってしまっているのではないかと。

■事務局

いわゆる部活動から将来的に地域移行するという流れのアンケートなので、もう一度しっかり考えていきたい。

■会長

「中学校での」という表現が気になる場所。

■事務局

事務局が示しているものが具体的なもので、実際にクラブ活動と言っているものかどうかまだ分からない。今あるものに対しての思いを聞きたい。部活動なのかクラブチームなのかシンプルなところを聞きたい。

■委員

部活動地域移行することを記述しないと、希望すれば自分の区域での学校で部活ができるということになるのではないかと。またQ2との落差がある。

部活動に代わるクラブ活動場所を決めるのはいつになるのか。

■会長

市で決めていく。部活動地域移行を進めるということは表明している。

■委員

児童アンケートについて、学校で実施するのか。家庭で保護者とするのか。

■事務局

想定として1人1台端末があるので児童については学校でウェブ回答。保護者はそれぞれご家庭でと思っている。

■委員

4年生が理解できるか心配。

■会長

アンケートの設問自体に問題があるし、実施方法にも問題がある。実施に向けてしっかり準備をしていきたい。

■副会長

地域移行に決まります。といった姿勢をきちんと出した方がいいのではないかと。

■会長

(案)で前提を示しているので問題ないと思う。実施方法についても意見をいただいたが、小学校4年からアンケートをとるとするのは、移行の年度に関わる学年とうことで進めたい。

アンケートについて意見を参考に、事務局の方で修正願いたい。

■委員

児童用Q3が地域移行に対して、内容が後ろ向きである。保護者用アンケートのQ3も同じ。移動がスクールバス等で移動するのか、親が送迎しなくていけないのか曖昧である。

移動しないっていう意向が一番良いが、親の送迎ではなくバス等が出るのの方がいいのは皆同じだと思う。

■副会長

もし地域移行となれば予算措置はどうなるのか。

どのくらい必要になるか、早めに試算をしてほしい。予算が十分確保できるならば、お金を取る必要はないのではないか。交通費も予算措置ができれば、Q7の質問はいらんではないか。

■事務局

予算措置というのはお金の部分については、額によるが確保しないとイケないがまだ試算するのが難しい。

費用面でいえば移動の経費、それから指導者に対する報酬の経費、事務局に対するその人件費及び事務費になる。その他でいえば施設関係の整備、道具用具などが上げられる。それが今具体的にいくらかっていうがまだ見えていないが、かなり大きな金額になるだろうと思う。国、県の補助というのは今少しずつ出てきているが大きな金額ではない。

地域移行が始まれば、補助金も増えてくるだろうが、今のところはっきりと見せてきてない状況である。長門市は大枠な案は示すが、具体的なものを今から作り上げていくために意見を聞き、形にしていきたい。そのためにアンケートをとり、具体的な案を作成していき予算を作っていくたい。

■会長

国の方もはっきりしたものが全然出せてないという段階で、地方自治体が額を決めるのは中々難しい。おそらく大原則として補助金が必要となるが、待っているわけにはいかない。できることから構想していく。具体が固まる段階で補助がはっきり見えてきた時に額の支援をしてもらうという風に理解しております。

■事務局

指導者のお金に関しては、今までボランティアでやってこられたという部分なので、それを実際に掛かる経費というのは今から積み上げていくとどうなっていくのかっていうのは、今の段階では分からない。

■会長

アンケートの内容について、指摘の点を含めて再度精査を行って、開始時期は絶対ずらさないとないということをお願いしたい。

貴重な意見をいただいたので、ある程度、分類して、精査して、考えていく。アンケートについては精査を加えた上で実施し、その結果を次回のこの会議の第3回で、示ししながら進めていきたい。

■事務局

第3回の協議会は令和5年5月の下旬を予定。

第2回長門市部活動改革推進協議会を終了いたします。どうもありがとうございました。